

[書評]

「道東の自然を歩く」—地質あんない—
道東の自然史研究会編

池田保夫
北海道教育大学釧路校地学教室

**Book Review: Geological guidebook in northeast Hokkaido, Japan
by Research group for natural history of northeast Hokkaido**

Yasuo IKEDA

Department of Earth Science, Hokkaido University of Education, Kushiro 085-8580, Japan

「道東の自然を歩く」という表題の地質案内書が、1999年11月25日に北海道大学図書刊行会から刊行された(写真1)。編者は道東の自然史研究会で、B6版268頁で本体価格は1,800円である。

北海道には、日本列島のみならず地球史の解明に重要な地質現象が多くあるにもかかわらず、1970年代後半まで、普及的な地質巡検案内書はありませんでした。1977年になって、「札幌の自然を歩く」が刊行され、その後、順に「十勝の自然を歩く」、第二版の「札幌の自然を歩く」、「空知の自然を歩く」、「道南の自然を歩く」、「道北の自然を歩く」、そして今回、「道東の自然を歩く」が刊行されるに至って、全道を網羅した地質巡検案内書が完結されたことになる。

これまで刊行されたいずれの本も、地域に根ざした自然史を日常生活の中で身近に感じてもらえるような執筆者の協力、編集がなされているのが特徴である。

本書での執筆者も、その地域を長年研究してきた全国からの大学の研究者、大学院学生、博物館関係者、国立・道立の研究機関の関係者、コンサルタントなど民間会社関係者、中学教員と多彩である。本書で扱われている地域は、釧路・根室の全域、佐呂間～津別より東部の網走、及び白糠丘陵にかかる十勝の各支庁管内とされ、さらに見学しやすいように、下記のように六つの地域に区切られて見学コースが設定されている。

- I 太平洋沿岸西部：釧路湿原、釧路北部の台地、釧路炭田での地層の堆積環境を主としたもの。
- II 太平洋沿岸東部：昆布森から花咲岬までの地滑り地形、白亜紀の地層、白亜紀の海底火山を主としたもの。
- III 根釧台地：釧路～風連、根室～標津にかけての第四紀

の地殻変動を主としたもの。

- IV 知床半島：知床半島の火山を主としたもの

- V 火山と湖：阿寒～屈斜路～摩周の火山活動を主としたもの。

- VI オホーツク海沿岸・白糠丘陵：海岸段丘、新第三紀の海底火山、白亜紀～古第三紀の海山付加体やK-T境界、新第三紀の地層を主としたもの。

K-T境界は、日本で唯一見られる、巨大隕石衝突による恐竜絶滅の現場が見られる特筆すべき場所です。

コース案内最後の章では、最新の地質学研究成果にもとづく、「道東の生い立ち」の記述と「道東の湖」の説明がある。道東の生い立ちでは、一億年以上に及ぶ道東の大地に刻まれた歴史から、さらには、数千万年後までの未来までも描かれている。この本で紹介された岩石や地層と結びつけられて説明されているので、この章を読んで、各コースを見てまわると、見るもののイメージがさらに膨らむだろう。

巻末には、地形図や地質図の入手先や道東各地の博物館・資料館が紹介されていて地質見学の準備に活用できるよう配慮されている。

内容的には、全体的に平易な文章で書かれていて読みやすく、みどころのポイント、地形図の種類の指示、交通手段、コース内のきめ細かい距離が示されていて、実際の活用にあたり、分かりやすく、大変便利な構成になっている。

若干の改良点を述べるならば、どうしても、避けられない専門用語があって、家族旅行で利用したり、小学生や中学生が教師の引率なしで使用する場合、わかりにくい場合があるかもしれない。将来、巻末に用語の説明な

どがつくと、初めて地質に接する人にとって大きな助けになり、普及書として、より完璧なものに近づくことだろう。口絵の写真はカラーであるため奇麗で迫力のあるものであるが、コース内の露頭写真等は白黒で、一部に不鮮明な写真があるのは残念である。将来的には、カラー写真集による地質案内本が出ることを期待したい。

近年、地滑り、岩石崩落、地震・津波、火山噴火など地質学が関わる自然災害が注目されてきているが、これらの災害予防には、その土地の知識をできるだけ知っていた方が望ましいわけですが、残念ながら、事が起きてから関心もたれるというのが現実のように思えます。この本を編集されてきた研究会の人たちが言い続けてきたことですが、自然環境を知り、自然の保護を願い、そして私たちの生活を自然災害から守るためには、その基礎となる郷土の自然史を学んでいくことは重要でしょう。その意味で、この本が、日常の学校の授業や課外授業の中で、あるいは、家族旅行の中で活用され、その結果、ほんの少しでも、自分が今立っている大地についての知的好奇心を呼び覚ますことができれば、新しい郷土の見方が開けることができるのではないかと思う。

今後も、地質調査はすすみ、地球史の新しい見解も生まれていくことでしょう。この本の中で紹介されたいくつかの露頭はやがて見えなくなってしまうたり、逆に、新しい露頭ができてくるかもしれません。この本を持って、地球変動の歴史を感じながら歩かれ、さらには、この本を読んで、関心をもった読者が、今度は自分たちが主役になって改訂版を出すまでになったとしたら、この本の刊行は大成功と言えるでしょうし、そうなることを評者は願う。

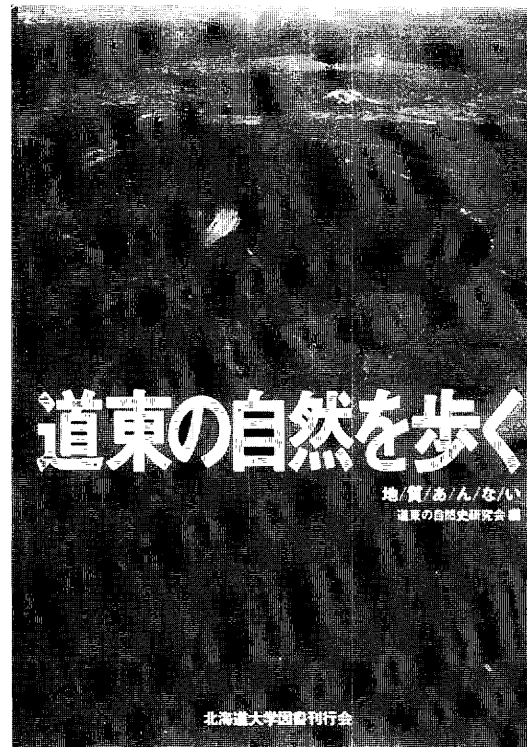


写真1 「道東の自然を歩く」—地質あんない—
道東の自然史研究会編，1999年11月，北海道大学
図書刊行会，268頁，定価（1,800円+税）。